

2014 年度
事業報告書
会計報告書



バングラデシュ BDP 学校保健プロジェクトの授業に出席した少女


JOCS 医療を通じて、愛を世界へ。
公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会
JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

目 次

1. 今年度の歩み	1
2. 海外諸活動	3
2-1 海外派遣	3
(1) バングラデシュ 山内章子ワーカー	3
(2) バングラデシュ 岩本直美ワーカー	4
(3) パキスタン 青木盛ワーカー	5
2-2 短期ワーカー派遣	7
2-3 研修生・奨学金支援	7
2-4 協働プロジェクト（プロジェクト・りとる）	14
(1) BDP 学校保健プロジェクト バングラデシュ	14
(2) TAHO 診療統計分析能力強化プロジェクト タンザニア	14
(3) SALT トライアルプロジェクト カンボジア	15
3. 国内諸活動	16
3-1 国内活動全般	16
3-2 国際保健人材育成	19
3-3 東日本大震災被災者支援	23
3-4 広報	25
3-5 募金	27
3-6 使用済み切手運動	27
3-7 JOCS 関西バザー	29
3-8 ネットワーク活動	29
4. 運営会議	29
4-1 第 53 回定時社員総会	29
4-2 理事会	30
4-3 委員会	30
4-4 5 ヶ年計画 2013	32
4-5 評価	33
4-6 使用済み切手運動事業の公益目的事業への統合	34
5. 事務局	35
6. 一般会員・社員会員の現状報告	37
7. 2014 年度の主な動き	37
8. 会計報告	41
貸借対照表	41
貸借対照表内訳表	42
正味財産増減計算書	43
正味財産増減計算書内訳表	46
財務諸表に対する注記	49
附属明細書	52
財産目録	53
公益目的事業会計 収支計算書	55
収益事業等会計 収支計算書	58
法人会計 収支計算書	59
収支計算書総括表	61
収支計算書に対する注記	62
監査報告書	63
付録 2014 年度出版物に掲載された記事の一部	65

1. 今年度の歩み

＜常務理事 大友宣＞

今年度も、会員¹、支援者、ボランティアの皆様のあたたかいご支援、ご協力と祈りの心に支えられ、アジアやアフリカの人々と共に生きる活動が続けることができました。また、東日本大震災で被災された方々への支援も、皆様のご理解とご協力により、JOCSの海外での経験を活かした活動を展開できました。皆様に感謝申し上げます。

今年度は、JOCSの活動をまだ知らない方々の理解と賛同を得るため、コミュニケーション基盤を再構築しました。その結果、JOCSのコミュニケーションワードを「医療を通じて、愛を世界へ。」に決定しました。JOCSは現在、「女性と子ども」「障がいのある人」「少数民族」「HIVに影響を受けた人々」「医療過疎地にある人々」に活動の焦点をあてています。これからも、活動地の人々と共に生きる私たちの活動を一層充実させてまいります。これからもご支援よろしくお願い申し上げます。

2014年度の特記すべき活動を以下に記します。

（1）海外諸活動

1) ワーカー派遣

今年度は、3名の長期派遣ワーカーがそれぞれの任地で以下の働きを行った。

バングラデシュでは、山内章子ワーカーが前年度と同様に、バングラデシュ各地で理学療法技術者や現場スタッフの技術教育に取り組み、またリハビリを必要としている人への理学療法を実施した。2015年1月に第二期の任期を終えて帰国し、3月より報告会を行っている。

岩本直美ワーカーは、ラルシュ・マイメンシン・コミュニティで、知的障がいのある人々のための施設の運営と組織強化に携わった。

パキスタンの青木盛ワーカーは、新生児の生命をまもる診療や、乳幼児の救急医療にあたった。9月に第二期の任期を終えて帰国し、全国で報告会を行った後、1月末に退職した。

青木ワーカーは3～4月、山内ワーカーは6月、岩本ワーカーは10月にそれぞれ活動終了時レビューを行った。

2) 奨学金支援

アジア、アフリカの保健医療従事者育成を目的とした奨学金は、新規受給者・継続者を合わせ、インド、インドネシア、ウガンダ、ネパール、バングラデシュ、タンザニアの78名の研修を支援した。

¹会員：本報告書の中で特にことわりのない場合は、社員会員及び一般会員の皆様に指します。

1. 今年度の歩み

今年度はインドネシア、バングラデシュ、タンザニアの奨学生と元奨学生を訪ね、JOCS の奨学金を受けて医師や看護師などの医療従事者になった人々が、地域医療に貢献している。

3) 協働プロジェクト(プロジェクト・りとる) (Project “LITTLE” = “Living together with the people”)

2010 年 4 月から開始した協働プロジェクトは、今年度 3 つ行っている。それぞれモニタリングを行いながら、現地団体と協働して活動を行っている。

バングラデシュでの学校保健教育プログラムは、最後の年である 5 年目を迎えた。学校での保健教育の授業、身体測定、思春期女子への講習、ヘルスフェスティバルの開催などを行った。3 月に終了時評価を行い、その結果を受けて、もう 1 年延長することとした。

タンザニアでの診療統計分析能力強化プロジェクトは 2 年目を迎えた。順調にデータの収集をしていたが、タンザニア政府が診療統計収集における方針を大幅に変更したため、対応を行っている。

10 月より、カンボジアでヘルスセンターと協働し、小中学校で健康教育を開始した。1 年目は試験期間とし、その後評価を行い、継続を検討する。

(2) 国内諸活動

今年度は、使用済み切手運動が 50 周年を迎え、東京と大阪でそれぞれ記念イベントを開催した。これまで 50 年の歩みを支えてくださった皆様に感謝すると共に、ポスターコンクールを行い、切手運動をさらに広げていくための新しいポスターを決定した。冬期には書き損じはがき収集キャンペーンを行い、たくさんの方からご協力をいただいた。書き損じはがきの収集量は、前年度の 3.5 倍となった。

国際保健医療協力に関心をもつ方々のために実施しているプログラムは、母子保健に焦点を当てた勉強会を開催し、毎回多くの参加者を得た。

また今年度も、皆様のご協力を得て、東日本大震災被災地での支援活動を継続することができた。釜石では心のケア活動及び訪問看護チームの派遣、福島県では、いわき市仮設住宅集会所での健康相談活動、児童養護施設の子どもたちを放射能による健康被害からまもる活動への協力を継続した。

(3) 運営会議

第 53 回定時社員総会を 6 月に開催した。決算報告、理事及び監事の選任が承認・決議された。理事会は多様なメンバーで構成し、様々な議題に対して真摯な協議を行った。

今年度も、多くのボランティアの皆様が JOCS の活動を支援してくださいました。私たちの活動に共感して様々な形でご支援をくださった方々に、深く感謝申し上げます。

2. 海外諸活動

〔2-1〕 海外派遣

パキスタン派遣の青木盛ワーカー及びバングラデシュ派遣の岩本直美ワーカーと山内章子ワーカーの活動終了時レビューを実施した。青木ワーカーは任務を終了して無事帰国し、各地での報告会を行い、1月末で退職した。山内ワーカーは二期目を終えて帰国し、報告会を開始した。

（1）バングラデシュ 山内章子ワーカー （理学療法士）

派遣先：PCC（Protibondhi Community Centre）（障がい者センター）

任期：2012年1月～2015年1月

1) PCC（Protibondhi Community Centre）（障がい者センター）（マイメンシン県）

- ・脳性まひ児のデイケアでは、モニタリングの役割を担った。必要と思われた技術的アドバイスやボランティアを含めた講義を行ったが、担当のジュマ氏がほぼ運営することができていると判断した。来年度からはPCCのコーディネーターのラジョン氏がドナーに対するモニタリングを行うよう引継ぎを行った。
- ・理学療法技術者への教育は骨・関節の講義は終了したが、筋肉の解剖までには至らなかった。彼らの仕事の様子からも、一度は大まかにCDD（Centre for Disability in Development 開発と障がいセンター）で学んでいるため、これ以上の講義は不必要と考えた。
- ・口唇口蓋裂プログラムは、新患がなく、PCCとしては不要のプログラムとなった。
- ・ストロークモヒラクラブ（片麻痺女性クラブ）は女性クラブ（障がいのある女性の集まり）のメンバーによって運営を始めた。リスクマネジメントや、家族に対する説明能力が十分に育たず、家庭訪問は十分できたが、メンバーを外に出す機会があまりもてなかった。
- ・女性クラブがPCC内で発言する際のサポートを行った。ダイレクターと女性クラブの間の感情的な確執を緩和することに努めた。

2) Kailakuri Clinic（タンガイル県）

- ・月に一度、外来で理学療法を行った。
- ・理学療法責任者となったシルピー氏の教育活動を開始した。最低限の乳児の正常運動発達や関節の動き方は習得できたが、実技が伸びず、理学療法外来は以前クリニックで山内から学んだシニアの2名の監督下で、山内の戻る2015年



理学療法中の山内ワーカー

2. 海外諸活動

6月まで行わざるを得なくなった。

3) CPD (Centre for People of Disabilities ディナジプール県 Dhanjuri mission 内)

障がいプログラムに熱心だった責任者の神父が異動となったため、活動が縮小している。

- ・スタッフ3名とカリタス (NGO) のフィールドワーカーのトレーニングを訪問時に行った。また、CDD のトレーニング (バングラデシュで権威がある) に、JOCS の奨学金により2名を送った。この2名は山内から1期、2期を通じて理学療法を学んだ2名である。

4) Butahara mission (ラッシャヒ県)

- ・責任者の神父の理解を得るのは今年度も困難を極め、障がいのある人のためのスペースをミッション内に確保できなかっただけでなく、障がいのある女性のためのプログラムも開始できなかった。

5) カリバリ・プロティボンディ・コラン・ショミティ

- ・責任者のロフィクル氏が地元の NGO(Mati) から給与を得られるように交渉した。Mati とは、時々連絡を取り合い、山内の3期目における要望も伝えたが、どこまで彼らがフォローできるかは未知である。
- ・理学療法のための訪問を再開した。(6月より月一度)

6) その他

- ・ビリシリのフィールドワーカーは、所属 NGO から給与が得られないため、障がい者プログラムを全く行っていないことがわかった。
- ・ジョルチョットロのデイケアの責任者と月に一度ミーティングを持ち、アドバイスをを行ったが、責任者が助言を聞かないため、状況は好転しない。外国人の山内ではなく、地元の人にアドバイスを受けるようにいくつか選択肢を提供し、2014年12月をもってアドバイスをを行うことを取り止めた。

(2) バングラデシュ 岩本直美ワーカー (看護師)

派遣先: Taizé Community (L'Arche Mymensingh)

(テゼ共同体) (ラルシュ マイメンシン)

任期: 2012年5月～2016年2月

1) 新しい支援体制の模索

テゼ共同体の変化に伴い、ラルシュがマイメンシンの障がい分野で働く人たちと共に、互いに支え励ましあい、更に協力していく必要を深く自覚した年であった。霊的指導の支援についてはカナダ聖十字会のギルバート神父が、ラルシュに深く関わってくださり感謝であった。同会のサンタル族出身のテオトニアス神父もラルシュを訪れてくださり、少数民族の青年男女の霊的支援について協力をお願いすることができた。

2) 理事会の強化

国際ラルシュが企画したラルシュの理事養成プログラムへ、書記担当理事を派遣した。また国際ラルシュ関係者のマイメンシン訪問にあわせて、理事養成プログラムを2度実施した。新理事の候補となる人材はあったがメンバーになるには至らず、増員とはならなかった。



コミュニティメンバーと岩本ワーカー

3) コミュニティリーダーの評価作業

コミュニティリーダーの評価作業が、ラルシュ理事会と国際ラルシュ担当者により行われた。JOCSのレビュー時期とも重なったため、部分的にレビューチームも参加した。コミュニティメンバーたちからの聞き取りには、テゼの責任者であるブラザーエリックが通訳として同席してくださった。三者が協働でコミュニティリーダーの評価作業を行ったことでコミュニティの現状理解及び相互理解が更に深まった。

4) ラルシュの家の設計と資金調達

国際ラルシュの協力により、インド系カナダ人建築家が家の設計をしてくださった。マイメンシンに一ヵ月滞在し、コミュニティメンバーからそのニーズを聞き取り話し合いを繰り返しながら作られた家のデザインは、皆を十分満足させた。地元施工会社及びエンジニアの選択、そして市担当局への建築許可の申請書作成、また建築費支援申請などを行った。

5) 第二のラルシュ創りに向けての模索

複数の候補地から北部のディナジプール県を選び、ラルシュに理解の深い同地の司教の支援を得て、コミュニティのメンバーが出向き小さなプログラムを行った。しかし、50周年事業の際マイメンシンに滞在した国際ラルシュのシニアメンバーより、現在のコミュニティの基盤を固めることを優先すべきという助言があり、第二のラルシュについては現在保留となっている。マイメンシンコミュニティの現状理解また将来的な見込みについては、実際にマイメンシンを訪問した者たちと、現地を訪れて見たことのない国際ラルシュのメンバーの理解の間に違いがあり、話し合いと検討が続いている。

(3) パキスタン 青木盛ワーカー (医師)

派遣先：聖ラファエル病院 (St. Raphael's Hospital)

任期：2011年10月～2014年9月

1) St. Raphael's Hospital (聖ラファエル病院) での業務

① 外来診察

- ・月曜から土曜、1日3時間程。その他時間外の診察。
- ・多い疾患は感冒、肺炎、気管支炎、下痢、嘔吐、脳性麻痺など。

2. 海外諸活動

②小児の入院

- ・月数名（肺炎、下痢、嘔吐等）

③新生児室

- ・1日3回の回診と病的新生児の治療を行った。

	分娩数	経膣分娩	帝王切開	他院へ紹介した新生児数	院内死亡した新生児数	人工呼吸器を使用した新生児数
2013 年	1642	886	756(46%)	41	25	1
2014 年 (1～8 月)	1101	556	545(49%)	5	18	14

人工呼吸器を使用した新生児の転帰（2014 年 1 月～8 月）

	生存	死亡	他院紹介	合計
IMV	0	0	0	0
N-CPAP	11	3	0	14
N-CPAP + IMV	0	0	0	0
	11	3	0	14

IMV：間歇的強制換気 N-CPAP：経鼻持続陽圧換気

- ・2013 年度は諸般の事情により人工呼吸器が必要な新生児を他院へ送っていたが、2014 年度は 聖ラファエル病院で人工呼吸器による治療を行った。

- ・聖ラファエル病院での死亡原因は、早産児（特に在胎 28 週未満）、極低出生体重児、新生児仮死、呼吸窮迫症候群、胎便吸引症候群、敗血症、先天異常など。



診察をする青木ワーカー

2) プロジェクト費

- ・主に酸素流量計、光線療法ユニットの蛍光管の購入にあてた。

3) 奨学金

- ・2014 年度の申請なし。

聖ラファエル病院での活動を終え、2014 年 9 月末に帰国した。2014 年 11 月から 2015

年1月まで活動報告会を行った。

【2－2】 短期ワーカー派遣

今年度は短期ワーカーの派遣はなかったが、短期ワーカー規程を改定し派遣の際の目的を下記のとおりにした。

- ・プロジェクトの発掘・形成のため
- ・ワーカーの活動の補完のため
- ・プロジェクトの運営指導のため
- ・プロジェクトの技術指導のため
- ・その他理事会が必要と認めることのため

【2－3】 研修生・奨学金支援

2014年度に支援した奨学生は、インドネシア9名、ネパール19名、バングラデシュ8名、インド5名、ウガンダ24名、タンザニア13名の合計78名である。詳細は2014年度研修生一覧（8～13ページ）を参照。

奨学金事業のモニタリングを以下のように行い、現地の保健医療事情・教育制度を把握するとともに、奨学金事業の有効性と問題点について聞き取りを行った。

	実施期間	訪問した保健医療施設の数	面談した奨学生・元奨学生の数
タンザニア	2014年9月	10カ所	14人
インドネシア	2014年10月	5カ所	54人
バングラデシュ	2014年12月	3カ所	10人

一覧表注

*職業は奨学金申請時点のもの

*GKST : Geredja Kristen Sulawesi Tengah (中部スラウェシキリスト教会)

*GMIM : Geredja Masehi Indjili Minahasa (ミナハサ福音教会)

*ICAHS : Indonesia Christian Association for Health Service (インドネシア・キリスト教保健サービス協会)

*HDCS : Human Development and Community Services (ネパールのキリスト教系 NGO)

*PIME : Pontificio Istituto Mission Estere (カトリック・ミラノ外国宣教会)

*UPMB : Uganda Protestant Medical Bureau (ウガンダ・プロテスタント医療連盟)

*TAHO : Tabora Archdiocesan Health office

2. 海外諸活動

インドネシア

職業	性別	年齢	研修機関	研修内容	研修期間
看護師	女	31	STIFA Pelita Mas, Palu	薬学	2011年6月 ～ 2015年8月
看護主任	男	47	STIK Central Jaya Palu	看護学修士	2011年9月 ～ 2014年9月
事務	女	22	STIK, Indonesia Jaya Palu	栄養学	2013年9月 ～ 2016年9月
ボランティア	女	26	Stikes Husada Mandiri Poso	助産学	2014年7月 ～ 2017年7月
看護師	女	28	Stikes Husada Mandiri, Poso	助産学	2011年6月 ～ 2014年9月
看護師	女	42	Bethesda Nursing Academy	看護学修士	2012年8月 ～ 2014年7月
看護師	男	42	Bethesda Nursing Academy	看護学	2012年8月 ～ 2014年7月
看護師	女	34	Bethesda Nursing Academy	看護学	2012年8月 ～ 2014年7月
看護師	女	24	Tarumanagara, Jakarta	医学	2013年1月 ～ 2018年1月

ネパール

理学療法士助手	男	43	Kathmandu University, School of Medical Science	理学療法	2010年7月 ～ 2015年1月
看護師	女	27	Nagarik College of Health Science	看護学修士	2012年12月 ～ 2015年10月
無職	男	24	Asian College of Medical Science & Technology P.LTD	臨床検査	2012年12月 ～ 2015年12月
村落保健員	男	33	College of Allied Health Science	公衆衛生	2013年7月 ～ 2016年7月
薬局スタッフ	男	44	Kailpal Health Institution	薬学	2011年9月 ～ 2014年9月

職業	性別	年齢	研修機関	研修内容	研修期間
外来主任	男	35	Nepal Commerce Campus, Tribhuvan University	経営学	2013年8月 ～ 2015年8月
医師	男	31	National Academy of Medical Sciences	小児医師	2011年9月 ～ 2014年9月
事務	男	42	National Open College	ヘルスケアマネジメント修士	2011年11月 ～ 2014年11月
看護助産師助手	女	28	Kamali Academy of Health Sciences	看護学	2014年10月 ～ 2017年10月
准助産師	女	31	Kamali Academy of Health Sciences	看護学	2014年9月 ～ 2017年9月
検査技師助手	男	37	College of Allied Health Science	検査技師	2013年7月 ～ 2016年7月
看護講師助手	女	36	Krupanidhi College of Nursing	看護学	2014年9月 ～ 2016年9月
看護講師助手	女	37	Faran College of Nursing	看護学	2013年6月 ～ 2015年6月
教師	女	37	Faran College of Nursing, Bangalore, India	小児看護修士	2012年7月 ～ 2014年7月
看護講師助手	女	37	Sanjeevani College of Medical Sciences	看護学	2014年1月 ～ 2017年1月
検査技師	男	45	Chitwan School of Medical Science	医用画像工学	2012年9月 ～ 2016年8月
薬剤師助手	男	39	Limbini Institute of Technical Sciences	薬学	2013年9月 ～ 2016年9月
看護助産師助手	女	48	Tansen Nursing School	看護学	2013年11月 ～ 2016年11月
看護師	女	30	B & B Medical Institute	看護学修士	2013年3月 ～ 2016年3月

バン格拉デシュ

理学療法技術者	男	30	Center for Disability Development	理学療法技術	2014年6月 ～ 2014年7月
---------	---	----	-----------------------------------	--------	-------------------

2. 海外諸活動

職業	性別	年齢	研修機関	研修内容	研修期間
理学療法技術者	女	30	Center for Disability Development	理学療法技術	2014年6月 ~ 2014年7月
理学療法技術者士	男	29	Center for Disability Development	理学療法技術	2014年11月 ~ 2014年12月
無職	女	21	Christian Hospital Chandraghona	看護学	2012年1月 ~ 2015年7月
その他	女	20	Nursing Institute Shishu Sasthya Foundation Hospital	看護学	2014年2月 ~ 2017年2月
無職	女	20	Holy Family Red Crescent Medical Hospital	看護学	2013年2月 ~ 2016年2月
無職	男	22	Bangladesh Health Professions Institute (BHPI) CRP	理学療法	2012年1月 ~ 2015年1月
学生	女	20	Christian Mission Hospital, Rajshahi	看護学	2014年2月 ~ 2017年2月

インド

無職	男	22	C.S.I. College of Dental Science and Research	歯学	2009年9月 ~ 2015年2月
学生	女	21	Christian Medical College	医学	2011年7月 ~ 2016年1月
看護師	女	26	Christian Medical College, College of Nursing	看護学修士	2014年8月 ~ 2016年8月
無職	女	22	Sarah Nursing College	看護学	2009年9月 ~ 2014年9月
学生	女	19	C.S.I. College of Dental Science and Research	歯学	2013年9月 ~ 2017年9月

ウガンダ

准看護師	男	29	International Health Sciences University	医学	2012年8月 ~ 2015年8月
看護助手	女	23	Jerusalem Institute of Science and Technology	助産学	2014年10月 ~ 2017年4月

職業	性別	年齢	研修機関	研修内容	研修期間
看護師	男	23	Kampala International University	臨床医学・公衆衛生	2013年8月 ～ 2016年8月
看護師手伝い	女	25	Kuluba School of Nursing and Midwifery	助産学	2013年11月 ～ 2015年11月
医師長	女	38	Makerere University College of Health Sciences School of Medicine	小児医学・小児看護	2013年8月 ～ 2016年8月
ヘルプセンター責任者	男	29	Kampala International University	医学	2012年9月 ～ 2016年8月
学生	男	27	Gulu University	医学	2012年9月 ～ 2014年9月
准看護師	女	38	Mulago School of Nursing and Midwifery	看護学	2013年5月 ～ 2015年5月
看護師	女	40	International Health Sciences University	看護学修士	2013年9月 ～ 2016年9月
看護師	男	40	Mulago School of Paramedics	麻酔学	2012年5月 ～ 2014年11月
准助産師	女	28	Soroti School of Registered Comprehensive Nursing	助産学	2014年5月 ～ 2015年11月
暗室助手	男	26	Kampala International University	臨床医学・公衆衛生	2013年8月 ～ 2016年8月
看護助手	男	28	Ngora Hospital School of Nursing and Midwifery	看護学	2014年11月 ～ 2017年5月
助産師	女	34	Mulago Paramedical School	麻酔学	2012年8月 ～ 2014年8月
准看護師	女	27	Mulago School of Nursing and Midwifery	助産学	2014年5月 ～ 2015年11月
准助産師	女	32	Mengo School of Nursing and Midwifery	助産学	2013年11月 ～ 2015年5月
准助産師	女	35	Mengo School of Nursing and Midwifery	助産学	2013年5月 ～ 2014年11月
看護師	女	33	International Health Sciences University	看護学修士	2012年8月 ～ 2015年8月

2. 海外諸活動

職業	性別	年齢	研修機関	研修内容	研修期間
薬剤師	男	28	Kampala International University	薬学	2014年8月 ～ 2018年2月
准看護師	女	31	Mengo School of Nursing and Midwifery	助産学	2014年5月 ～ 2015年11月
准看護師	男	45	Masaka School of Comprehensive Nursing	看護学	2013年5月 ～ 2014年11月
医師	女	28	Uganda Institute of Allied Health and Management Sciences	麻酔学	2013年9月 ～ 2015年9月
ヘルスセンター責任者	男	27	Gulu Institute of Health Sciences	臨床医学・公衆衛生	2012年8月 ～ 2015年8月
検査技師	男	32	International Health Sciences University	臨床検査	2012年8月 ～ 2014年8月

タンザニア

検査技師助手	男	26	Kolandoto School of Nursing	看護・助産学	2011年8月 ～ 2014年8月
看護助手	女	25	Kolandoto School of Nursing	看護・助産学	2011年8月 ～ 2014年8月
看護助手	女	24	Kolandoto School of Nursing	看護・助産学	2011年8月 ～ 2014年8月
看護助手	女	26	Kolandoto School of Nursing	看護・助産学	2010年8月 ～ 2014年8月
神父、カウンセラー	男	47	Sengerema Clinical Officers Training Centre	医学	2014年9月 ～ 2017年9月
看護助手	男	25	Ishimila Nursing School	看護学	2014年10月 ～ 2017年10月
看護助手	男	22	Kolandoto College of Health Science	看護・助産学	2012年9月 ～ 2014年9月
医師補	男	28	University of Dodoma	医学	2014年10月 ～ 2019年10月
看護助手	女	28	St. Aggrey College of Health Sciences	看護・助産学	2014年4月 ～ 2016年4月

職業	性別	年齢	研修機関	研修内容	研修期間
医師補	男	30	International Medical and Technological University	医学	2012年8月 ~ 2017年8月
看護助手	男	21	Kolandoto College of Health Science	臨床検査	2012年10月 ~ 2014年10月
受付係	男	21	Catholic University of Health and Allied Sciences	放射線診断	2014年10月 ~ 2017年10月
看護助手	女	42	Nkinga School of Nursing	看護・助産学	2011年8月 ~ 2014年8月

[2-4] 協働プロジェクト（プロジェクト・りとり）

JOCS が現地の協力団体とともに進める協働プロジェクトは、バングラデシュ、タンザニアの案件に続き、カンボジアでの活動も 10 月に開始した。バングラデシュの学校保健プロジェクトについては、この 3 月で終了の予定であったが、終了時評価の結果を受け、1 年間延長することとした。タンザニアの案件ではタンザニア政府の診療統計収集の大幅な変更により、その対応に迫られた。カンボジアの案件は活動 1 年目は試験期間とし、1 年経過したところで評価を行い、その後の継続を検討することとした。

(1) BDP 学校保健教育プロジェクト（バングラデシュ）

プロジェクト期間：2010 年 4 月～2015 年 3 月（本年は 5 年目）

相手団体：BDP（Basic Development Partners）

1) 本年度は以下の活動を行った。

- ・保健教育授業：全学年で年間を通して授業を行った。
- ・身体測定：2014 年 3～6 月と 10～11 月に全校で実施した。
- ・思春期女子への講習：ダッカ地区の学校でワークショップ形式で行った。また高校では、2014 年 12 月に若年結婚と妊娠についての授業を行った。
- ・ヘルスフェスティバルの開催：2014 年 5 月と 12 月に開催した。
- ・救急箱やゴミ箱などの状況を毎月確認し、必要であれば補充を行った。
- ・2014 年 1～3 月に生徒たちの母親向け講習会を行った。

2) 終了時評価

目的：プロジェクト期間中の成果を確認し、今後の活動について検討すること。

訪問先：BDP ヘッドオフィス（ダッカ）、BDP スクール（ダッカ、プバイル）

期間：2015 年 3 月 2 日～3 月 9 日

方法：①BDP とのディスカッション、②関係する書類の検討、③学校の観察（環境の整備 トイレ、井戸、ゴミ箱など）、④子どもの観察（行動、態度、外見）、⑤子ども・親・教師へのインタビュー（健康に対する知識と意識）

結果：各活動は、開始時期の遅れがあったものの実施された。しかし、いくつかの改善すべき点が認められた。子どもたちが健康に関する知識をもち適切な行動をするという目的に対しては、よい方向への進歩がみられたが、まだ十分とは言えないと結論された。

今後、指導用教材の改訂、授業の年間計画の作成、思春期女子向けクラスの年間計画の作成と参加率向上への取り組み、保護者向けワークショップの参加率の向上への取り組みという 4 点を重点的に行えば、プロジェクト目標は達成できると判断し、そのためにプロジェクト期間を 1 年間延長したいと結論した。

(2) TAHO 診療統計分析能力強化プロジェクト（タンザニア）

プロジェクト期間：2013 年 9 月～2016 年 8 月

パートナー団体：TAHO (Tabora Archdioces Health Office)

このプロジェクトでは、タボラ大司教区保健事務所が、傘下の 10 の保健医療施設の医療データを収集、分析、フィードバックができるようになることを目指しており、このプロジェクトにより、各保健医療施設が地域の保健状況を客観的に把握し、保健医療サービスの改善や強化ができるようになることが期待されている。

2014 年度は 5 月、9 月、1 月に JOCS 職員がタンザニアへ出張し、プロジェクトの進捗状況を確認した。TAHO では四半期データと年次データを収集しており、四半期データに関しては、記入シートとエクセル表の改訂が終了し、TAHO が自分で作業できるようになった。しかし、タンザニア政府がデータ収集の方針を大きく変更したため、データシートの改訂が再度必要になった。1 月の出張時に、TAHO 傘下の医療機関の担当者や医師を含めて協議を行い、新しいデータ収集シートの項目を決定し、シートの改訂を行った。またこれまで四半期で収集していたデータについては、2015 年 1 月より月次で収集することとした。

(3) SALT (Sokkapheap Anamai La-or sumrup samai Thmey = 次世代のための健康と良い衛生) トライアルプロジェクト (カンボジア)

プロジェクト期間：2014 年 10 月～2015 年 9 月

相手団体：Apostolic Prefecture of Battambang

2014 年 10 月にバタンバン司教区のヘルスセンターと協働して、小中学校で健康教育を開始した。このプロジェクトでは、バタンバン司教区周辺地域の学校に通う生徒の知識向上を目指し、長期的には生徒の地域の健康状態が改善されることが期待されている。

健康教育実施対象：バタンバン司教区周辺の学校に通う小学 6 年生と中学 3 年生（小学校 4 校、中学校 3 校で実施）

授業の内容：小学 6 年生対象 食事と栄養、環境衛生、個人衛生、水と食事に関係する病気、飛沫感染する病気、昆虫媒介性疾病、喫煙と飲酒について

中学 3 年生対象 性と生殖に関する健康、ジェンダー、性感染症、麻薬について



健康教育のポスター

7 月に健康教育実施に向けてカリキュラムや実施校の訪問を行った。また 11 月にモニタリングを行い、健康教育実施の状況の確認、及び 2015 年度にプロジェクト試験期間後の継続を検討するための基本調査に関してバタンバン司教区と協議を行った。

3. 国内諸活動

【3-1】 国内活動全般

(1) 健康を考えるワークショップ

今年度は女子学院中学校高等学校宗教部と捜真女学校中学部の2年生を対象に「健康」をキーワードにしたワークショップを開催した。バングラデシュ、タンザニアの保健医療事情を説明し、途上国が抱える保健医療問題を把握することを目的とした。その後、健康を守るために必要なこと、現在自分たちに出来ること、将来したいことを共に考える機会をもった。使用済み切手整理体験も併せて行い、使用済み切手が国際協力につながることを体験する機会をもった。

(2) ワーカー活動報告会

2名のワーカーが活動を終えて帰国し、活動地の保健医療の現状、活動の成果、人々の暮らしなどについて報告した。主な訪問先は、学校や教会、保健医療施設、市民団体などであった。

・パキスタン派遣

青木盛ワーカー：10月31日～1月31日 計35回

報告会期間外 3回

・バングラデシュ派遣

山内章子ワーカー：2月28日～3月31日 計11回

山内ワーカーは引き続き5月31日まで報告会を開催する。

(3) 地区 JOCS 活動

一仙台・足利・町田・京都・大阪・神戸・芦屋・四国高知（播州・岡山・大曲）

2014年度中に開催された地区 JOCS イベントは以下のとおり。

仙台 JOCS		参加数
8/3	せんだい地球フェスタに出展（仙台国際センター）	-
1/10	青木盛ワーカー報告会（仙台市市民活動サポートセンター）	16
足利 JOCS		
12/13	足利市民クリスマス（足利市民プラザ小ホール）	230
1/18	青木盛ワーカー報告会（生涯学習センター）	20
町田 JOCS		
12/20	青木盛ワーカー報告会（LTL キリスト教会）	12

京都 JOCS		
4/5	チャリティウオーカソン（京都鴨川河川敷）	56
7/26	チャリティコンサート（京都府アルティ）	315
11/15	青木盛ワーカー報告会（京都市国際会館）	30
大阪 JOCS		
6/20	大阪 JOCS カフェ 畑野研太郎元ワーカー（大阪聖パウロ教会）	35
10/31	大阪 JOCS カフェ 青木盛ワーカー（大阪聖パウロ教会）	24
3/28	大阪 JOCS カフェ 山内章子ワーカー（大阪聖パウロ教会）	32
神戸 JOCS		
7/12	石本馨元短期ワーカー報告会（日本基督教団神戸栄光教会）	67
2/28	山内章子ワーカー報告会（日本キリスト改革派神港教会）	71
芦屋 JOCS		
11/16	青木盛ワーカー報告会（芦屋浜教会）	62
四国高知 JOCS		
5/25	使用済み切手 50 周年記念 JOCS 小島莊明会長特別講演会（日本基督教団高知教会）	
11/29	青木盛ワーカー報告会 四万十集会（日本基督教団中村栄光教会）	16
11/30	青木盛ワーカー報告会 高知集会（日本基督教団高知教会）	51
11/8～ 9	高知スタンプショウに出店（高知イオン）	-

（4）講師派遣プログラム

JOCS の活動や使用済み切手運動の紹介のため、依頼に応じて事務局内外から講師を派遣している。今年度は以下の諸団体（23 団体）に講師を派遣した。

2014 年

5 月：新宿区社会福祉協議会山吹町地域交流館、名古屋学院大学、日本キリスト教団川之江教会、日本キリスト教団新居浜教会、宮城学院中学・高等学校

6 月：桜美林中学校高等学校、女子学院中学校高等学校宗教部

7 月：明治学院中学校、明治学院東村山高等学校、神戸ワイズメンズクラブ、桃山学院大学国際教養学部、桜美林大学、日本キリスト教団蒲生教会

8 月：平群町社会福祉協議会

10 月：明治学院高等学校

11 月：捜真女学校中学部、千葉英和高校、関西学院大学神学部

3. 国内諸活動

12月：聖母のさゆり保育園、千葉大学

2015年

2月：神戸YMCA ちとせ幼稚園、啓明学院中学校・高等学校、東京同信会出町会

(5) 事務局見学受入

JOCSの活動内容や、使用済み切手運動について学ぶ機会を提供するため、中学生や高校生のグループをはじめとする事務局訪問の受け入れを行っている。今年度は、学校や教会など、計11団体の訪問があった。

＜東京事務局＞ (8団体 61名)

盛岡市立下小路中学校、青山学院初等部宗教プロジェクト、明治学院高等学校、
仙台市立寺岡中学校、東京文理学院高等部、恵泉女学園中学・高等学校、香蘭女学校、
茨城県立土浦第一高等学校

＜関西事務局＞ (3団体 17名)

大阪西ローターアクト、イオンフォーレスト、滋賀県立守山高等学校

(6) 視聴覚資料 (DVD、写真パネル、切手紙芝居)

今年度は、DVDの貸出依頼が7件であった。

現在、JOCSにおける貸出可能な視聴覚資料は下記のとおりである。貸出可能なDVDについては、すべてYouTubeのサイトに掲載し、ホームページから視聴ができる。

＜DVD/VHS＞

- ・50周年記念DVD「カシナマジユパン」/「心をひらいて」(DVDのみ)
- ・日本のお友達へ
- ・アジアの呼び声に答えて
- ・エイズと向き合う
- ・クメールの人々とともに
- ・使用済み切手でアジアに医療協力を
- ・日本のお友だちへ
- ・はるかなるネパールの村へ
- ・オカルドウンガ診療所にて
- ・世界の屋根のヒゲ・ドクター
- ・ノーレンの目が見えた
- ・ヒマラヤの結核キャラバン

＜写真パネル＞

- ・ワーカーの活動地
- ・「みんなで生きる」表紙

＜ホームページからダウンロード＞

- ・使用済み切手運動紙芝居

(7) バングラデシュ活動紹介ツアー

「障がいのある人と共に歩む JOCS ワーカーを訪ねる旅」

日程：2014 年 10 月 31 日（金）～11 月 7 日（金）

訪問地：バングラデシュ マイメンシン県、ダッカ市内

参加者：12 名（女性 9 名、男性 3 名）

内容：岩本直美ワーカー、山内章子ワーカーの活動地である、マイメンシンに滞在し、テゼ共同体、ラルシュ、PCC、カイラクリヘルスプロジェクトを訪問した。ラルシュメンバーとの交流や PCC の女性クラブで当事者からお話を聞くことで、バングラデシュ派遣ワーカーの活動への理解が深まった。そのほかに、ラルシュ、PCC が実施している障がいのある家族がいる家庭を訪問するプログラムに同行し、障がいのある人の暮らしを見学した。貧しいながらも生き生きと生活する姿を見て、参加者それぞれが日本から協力できることを考える機会を与えられた。

(8) 仙台・石巻を訪ねて復興支援を考える旅

日程：2014 年 9 月 26 日（金）～27 日（土）

訪問地：仙台・石巻（日本キリスト教団東北教区被災者支援センター・エマオ活動地）

参加者：6 名（女性 4 名、男性 2 名）

内容：東日本大震災から 3 年半経った被災地の状況を視察し、必要な支援について考えた。被災者支援センター・エマオの活動を見学し、エマオがどのようにして被災者の方々と信頼関係を築いて活動してきたかを学んだ。

(9) チャリティー映画会

日時：2015 年 2 月 19 日（木）

場所：亀戸文化センター カメリアホール

上映作品：日本映画「日本の青空」

来場者：昼の部 157 名

夜の部 46 名

JOCS の活動紹介を目的として、本編上映前に 50 周年記念 DVD 「心をひらいて」を上映した。上映後はバングラデシュ派遣ワーカーの山内章子が、参加者の皆様へ日ごろのご支援への感謝の言葉を述べ、引き続き JOCS の保健医療協力活動をご支援くださるようお願いした。また会場にて海外保健医療協力事業のための募金を行った。

【3－2】国際保健人材育成

今年度は国際保健医療協力に興味を持つ人を対象に、母子保健をテーマとした海外保健医療勉強会を 4 回、その他の海外保健医療勉強会を 3 回、横浜市中区寿地区にて海外医療

3. 国内諸活動

協力フィールドセミナーを1回開催した。

(1) 海外保健医療勉強会

今年度は、計7回の勉強会をJOCS 東京事務局にて開催した。勉強の機会の提供のみならず、参加者と講師、また参加者同士の交流の場となった。

主なテーマ：「母子保健」×「国際協力」：4回

その他の国際保健医療協力に関するテーマ：3回

第1回

日時：2014年5月17日（土）16：00～18：00

参加者：合計16名（女性15名、男性1名）

【看護学生5 看護師3 看護師・保健師1 看護教員1 医師1 会社員1
浪人生1 高校生1 JOCS 理事1 不明1】

【JOCS 会員1名 非会員15名】

題名：「看護の基礎と多様性を考える」

講師：諏訪恵子氏（看護師・JOCS カンボジア派遣 2004～2011）

内容：講師が国際協力に携ることにきっかけになった、インドのマザー・テレサの家のボランティア活動の経験から、国立療養所多磨全生園を退職し、カンボジアに渡ってからの郡病院での活動、TBA プログラム、レナセールのシェルターでの活動、現在の日本での活動にいたるまで、看護師という立場でかかわってきた様々な経験について説明を行った。

第2回

日時：2014年6月13日（金）18：30～20：30

参加者：合計14名（女性13名、男性1名）

【看護学生2 看護師2 助産師2 会社員2 医師1 栄養士1 NGO 職員1 求職中1 JOCS 理事1 不明1】

【JOCS 会員3名 非会員11名】

題名：「国際母子保健：基礎編」

講師：倉辻忠俊氏（医師・JOCS タンザニア派遣 2011～2012）

内容：日本国憲法のなかの健康の位置づけ、母子保健法、母子保健関連用語を、インターネットサイトを参照しながら紹介し、なぜ母子保健なのか、目的、展望、インパクトを考えた。後半はワークショップ形式で、母子保健プログラムや指標に関して、参加者がともに考え学び合った。

第3回

日時：2014年8月30日（金）16：00～18：00

参加者：合計 14 名（女性 11 名、男性 3 名）

【医師 3 看護師 2 看護学生 1 助産師 1 養護教諭 1 理学療法士 1

NGO 職員 1 歯科衛生士 1 栄養士 1 主婦 1 JOCS 理事 1】

【JOCS 会員 4 名 非会員 10 名】

題 名：「パキスタンでの医療活動を通して、異文化の中で学んだこと」

講 師：岡野真弓氏（医師・マリアの宣教者フランシスコ修道会パキスタン派遣 1999-2008）

内 容：講師がパキスタンの聖ラファエル病院で 8 年間、現地のスタッフとともに働いた経験を話した。文化、宗教、価値観の違うところで母子保健活動を進める中で起こった様々な事例や、経験から学んだことを紹介された。

第 4 回

日 時：2014 年 10 月 25 日（土）16：00～18：00

参加者：合計 8 名（女性 6 名、男性 2 名）

【看護師 3 助産師 2 看護学生 1 栄養士 1 JOCS ワーカー 1】

【JOCS 会員 2 名 非会員 8 名】

題 名：「母子保健活動の実際」

講 師：柳澤理子氏（愛知県立大学看護学部教授・JOCS カンボジア派遣 1989～1995）

内 容：母子保健の基礎編として、言葉の定義や概論、世界の新生児や妊産婦の主な死因や病気、予防などを説明した。その後、カンボジアの保健システムや、講師がカンボジアで行った母子保健活動の経験を交え、具体例をとりあげながら、日本とは異なった医療システムや文化のなかで働くときの注意点などを説明した。

第 5 回

日 時：2014 年 11 月 22 日（土）16：00～18：00

参加者：合計 13 名（女性 12 名、男性 1 名）

【看護師 2 助産師 1 栄養士 1 学生 3 看護学生 1 医学生 1 会社員 1

公務員 1 不明 2 】

【JOCS 会員 4 名 非会員 9 名】

題 名：「パキスタンで、新生児と向き合った 6 年間」

講 師：青木盛ワーカー（小児科医・JOCS パキスタン派遣 2007～2014）

内 容：パキスタンの国の概要とパキスタンの医療事情を紹介後、青木ワーカーが聖ラファエル病院で新生児医療に携わって体験したことを、具体例をとりあげながら報告した。

第 6 回

日 時：2015 年 2 月 14 日（土）16：00～18：00

参加者：合計 10 名（女性 9 名、男性 1 名）

3. 国内諸活動

【看護師 7 大学教員 1 看護学生 1 会社員 1】

【JOCS 会員 1 名 非会員 9 名】

題 名：「グローバル・ヘルス向上のために日本の看護・助産職ができること」

講 師：田代順子氏（聖路加国際大学看護学部教授）

内 容：講師が自分自身の پاکستانでの経験やキャリアパスについて紹介した後、グローバル化が進む中での看護師のキャリア開発について聖路加国際大学での研究成果などをとりあげながら報告した。

第 7 回

日 時：2015 年 3 月 6 日（金）18：30～20：30

参加者：合計 10 名（女性 7 名、男性 3 名）

【医師 3 看護師 3 助産師 1 NGO 職員 1 学生 1 不明 1】

【JOCS 会員 3 名 非会員 7 名】

題 名：「国際母子保健：実践編」

講 師：倉辻忠俊氏（医師・JOCS タンザニア派遣 2011～2012）

内 容：疫学の概要について学び、疫学を使う上での注意、国際母子保健における疫学の応用とその注意点について説明を受けた。講師のこれまでの経験から、タンザニアにおける出産の統計やパプアニューギニアでの麻疹の予防接種の統計などを事例として紹介いただいた。

（2）海外保健医療フィールドセミナー

日 程：2014 年 12 月 29 日（月）～30 日（火）

場 所：横浜市中区寿地区

テーマ：草の根の人々と働く姿勢を学ぶ 2 日間

ー横浜寿地区で活動する人たちを訪ね、その働く姿勢を学ぶー

目 的：寿地区で働く人々と接する中で、日本国内にも存在する貧困や健康の問題を知る。

それらを通して、国際協力にも共通する必要な姿勢を学ぶ。

参加者：10 名（男性 6 名、女性 4 名）

【学生 4、医師 2、団体職員 2、看護師 1、教員 1】

【会員 4 名、非会員 6 名】

プログラム概要

1. 寿地区について説明 （なか伝道所 渡辺英俊牧師より）
2. 炊き出し、配食
3. JOCS ワーカー予定者の話 （弓野綾医師より）
4. 夜回り
5. スープ作り切り込み作業、炊き出し準備
6. 医療班の活動に参加

7. 越冬闘争について説明 (寿日雇い労働組合 近藤昇氏より)

【3-3】 東日本大震災被災者支援

被災地では、復興住宅の建設の遅れや仮設住宅入居者の高齢化と避難生活の長期化による心身状態の悪化が引き続き問題となっている。加えて、仮設住宅からの退去や復興住宅への入居に伴い、仮設住宅と復興住宅の双方における人間関係の再構築が新たな課題となっている。一方、福島では今も福島第一原発事故の影響下で、健康被害の不安を抱える人々や子どもたちが生活をしている。

震災から3年を迎えたことを機に、様々な支援団体が活動に区切りをつけていく中、JOCSの東日本大震災被災者支援活動は4年目も継続した。岩手県釜石と、福島県内の三つの地域で、地元の支援団体の要請に応え、医療従事者の派遣などを中心として活動を行った。JOCSは、それぞれの地域状況に合わせて、人々に寄り添い支えることを大切にしながら、活動を続けている。

(1) 岩手県釜石 (協力先：特定非営利活動法人カリタス釜石)

1) 看護チーム派遣 (ほぼ3ヵ月ごと) 及び看護師派遣 (ほぼ毎月)

ほぼ3ヵ月ごとに看護チームを派遣した。看護チームは仮設住宅や復興住宅などを訪問し、訪問ケア活動 (傾聴や血圧測定、健康相談など) やカリタス釜石の行う「お茶っこサロン (仮設住宅集会所などで開かれている被災者同士の交流の場)」などの活動に協力を行った。2014年度は6月、8月、11月、2月に約1週間ずつ活動を実施し、延べ25名が参加した。地元行政 (地域保健課) とともに連絡を取り合いながら活動を継続している。

また看護チームの活動とは別に、1名の看護師がほぼ毎月釜石へ赴き、カリタス釜石のケア活動に協力を行った。

2) カウンセラーの派遣 (9月まで毎月)

2014年9月まで毎月1名のカウンセラーを派遣し、カトリック釜石教会及び仮設住宅での被災者の傾聴活動や「お茶っこサロン」に協力を行った。また支援者のケアやカウンセリング、スタッフやボランティアを対象にした心のケアに関する研修などに協力した。カリタス釜石の活動の詳細については、公式ホームページ

<http://www.caritaskamaishi.com/>をご参照ください。

(2) 福島県いわき市

いわき市社会福祉協議会の要請により、いわき市仮設住宅集会所 (いわき市中央台高久第一集会所) に月2回医師及び保健師を派遣し、健康相談を実施した。JOCSの健康相談は、毎月第2・第4金曜日



仮設集会所 健康体操

3. 国内諸活動

の午後に行い、血圧測定や個別の健康相談、音楽にあわせての体操などを行った。2014年10月頃から復興住宅への転居が始まり、健康相談に訪れていた被災者の方々が引越しを終えた2015年3月に、3年間の活動を終了した。

(3) 福島県内児童養護施設

「特定非営利活動法人福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」をパートナー団体として支援している。福島県内の児童養護施設に入所している子どもたちの健康状態を把握し、放射能による健康被害の早期発見と早期治療を行うための活動を支援した。

1) 個人被ばく線量測定サービス（クイクセルバッチ）着用支援

福島市の「青葉学園」及び「福島愛育園」で、入所している子ども及び職員の着用を支援した。ホットスポットの発見に役立てられたほか、被ばく線量が高い人については、その行動から原因を明らかにし、生活の仕方を工夫するよう助言がなされた。

2) 超音波診断装置による甲状腺検査支援

1年毎に甲状腺検査を行うことにより、甲状腺の異変の早期発見・早期治療に役立てることを目的に、児童養護施設に医療従事者を派遣し、検査を実施した。「堀川愛生園」「福島愛育園」「いわき育成舎」の子ども及び職員を対象とした。検査の際に絵を使って、甲状腺の働き、放射線ヨウ素が癌を引き起こすメカニズムを解説し、甲状腺検査の必要性が理解されるようにした。

3) 事務所職員人件費支援

「福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」の事務所体制強化のため、事務の補佐を行う非常勤職員人件費の一部を支援した。

4) 尿中セシウム検査支援

内部被ばくの査定のため、「いわき育英舎」の子どもたちの検査を一部支援した。

<被災者支援募金報告>

募金総額：23,252,727円

(2010年度 70,000円、2011年度 12,153,111円、2012年度 6,088,125円、
2013年度 4,828,599円、2014年度 112,892円)

2014年度末までに使用した金額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

活動地	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	合計
宮城県仙台市	877,760	960,600	936,000	0	2,774,360
岩手県釜石市	1,588,740	1,900,595	1,854,956	2,220,143	7,564,434
福島県いわき市	55,290	945,745	449,570	705,440	2,156,045
福島県内児童養護施設	987,000	2,554,614	810,370	1,240,503	5,592,487
その他	80,749	277,071	0	0	357,820
合計	3,589,539	6,638,625	4,050,896	4,166,086	18,445,146

残額 4,807,581 円は、2015 年度以降の活動に使用する。

〔3－4〕 広報

(1) 会報「みんなで生きる」

- ・2014 年度は7回発行（6000～6200 部／回）。A4 版・16 ページで編集し、会員・寄付者などへ送付した。
- ・隔月発行とし、10・11月号と12・1月号の間に「子ども号」を発行した。
- ・JOCS の活動に即した記事を中心に、毎号行っているアンケートも参考にしながら事務局で誌面構成を検討し、編集を行った。編集にあたっては、以下のボランティアメンバーの協力をいただいた。

黒川瞳、古中大輔、那須野幸子

- ・夏期募金依頼書と共に年次報告書を送付するため、6・7月号は4ページ構成とした。
- ・「子ども号」は12ページ構成でカラー印刷とした。12・1月号は、クリスマス号でもあるので、表・裏表紙を含め6ページをカラー印刷とした。
- ・特集記事は以下のとおりである。

4・5月号：地区 JOCS と JOCS 事務局

8・9月号：使用済み切手運動 50 周年

10・11月号：アフリカ・ウガンダの奨学金支援モニタリング報告

子ども号：みんなで生きるために障がいについて考える

12・1月号：JOCS に連なる人々からのクリスマスメッセージ

2・3月号：小さな命の灯をまもるために 青木盛パキスタンワーカー活動報告

また、以下の記事を毎号掲載した。JOCS 会長による巻頭言、ワーカーからの手紙、JOCS と私、切手部通信、地区 JOCS から、事務局長デスクから、新入会者報告、ワーカー募集。

その他、東日本大震災被災者支援活動・協働プロジェクトの進捗状況・定時社員総会の報告や奨学生の紹介、講師派遣や子ども向けプログラムなど国内活動の案内・報告等を随時行った。

3. 国内諸活動

(2) 年次報告書

2013 年度に引き続き、前年度（2013 年 4 月～2014 年 3 月）の海外事業、国内活動、会計報告等をまとめた年次報告書を発行した。支援者への感謝とともに、活動内容や成果をわかりやすく伝えることを目的とした。写真を多く用い、また数値や受益者の声を通して成果を表せるように工夫をした。会報「みんなで生きる」6・7 月号と夏期募金に同封して発送をした。

(3) ホームページ

2014 年度は、切手運動のページに販売のページと販売に関するタイムリーな話題を提供するブログを追加した。また、JOCS メインページの Facebook と分けて、切手運動専用の Facebook を設けて、新たな協力者の誘導に努めた。その他、50 周年記念ページなどの追加を行った。

検索ページ対策として、より適切と思われる検索キーワードの選定と設定を行い、切手運動の書き損じハガキと外国コインのページの検索上位を目指し、成果を出している。

(4) 「JOCS フォーラム」の発行

今年度は第 29 号を発行した。内容としては、海外保健医療勉強会での柏木哲夫氏（金城学院学院長）、マガフ範子氏、柳澤理子氏の講演原稿、および第 51 回総会でのジェフリー・メンセンディーク（宣教師）氏の奨励原稿、そして、倉辻忠俊氏、宮川眞一氏、宮尾陽一氏、乾眞理子氏、石本馨氏の各活動報告書を掲載した。

(5) ボランティアテックの活動

今年度は、使用済み切手運動 50 周年のイベントに向けて、5 月 31 日にミーティングを行った。9 月に開催された東京、大阪で開催されたイベントにおいて、それぞれ展示、撮影などを担当し、大阪でのイベントのあと、反省の時を持った。

(6) ブランディング

独立行政法人国際協力機構（JICA）の NGO 向けアドバイザー派遣制度を利用した。2014 年 8 月から 2015 年 2 月まで 16 回アドバイザーが派遣され、職員全員でコミュニケーション基盤の再構築を進めた。理事会でも 2 回、協議した。団体コンセプト作成、SWOT 分析による潜在能力の発見等の結果、キリスト教共感層を主な対象とした新しいコミュニケーションワードを「医療を通じて、愛を世界へ。」に決定した。その後、会員を増やすために理解・共感・賛同を得るための活動報告会の内容を検討した。2015 年度の国内活動に活かしていく。

(7) 雑誌広告

キリスト教界での周知を広めることを目的とし、「百万人の福音」「信徒の友」のキリスト教雑誌 2 誌へ広告の掲載を行った。毎月タテ 1/3 頁、1 月号は冬期募金のお願いを含めて 1 頁の広告を掲載し、広告を見た 8 名の方から新規支援のお申込み（会員 2 名・寄付 6 名）をいただいた。

〔8〕出版物・マスコミへの掲載

キリスト新聞に 5 月 24 日号に、第 20 回エキュメニカル功労賞受賞の記事が掲載された。また、新宿区社会福祉協議会情報誌に、青木盛ワーカー報告会及び使用済み切手運動の記事が掲載された。

〔3－5〕 募金

今年度の募金協力件数は以下のとおりである。

2014 年度	依頼数	協力件数	協力率	寄付金総額
夏期募金	15,947 件	2,161 件	13.6%	21,633,380 円
冬期募金	16,807 件	5,637 件	33.5%	53,947,415 円
その他の募金	—	—	—	6,760,458 円
東日本大震災被災者支援指定	—	—	—	112,892 円
国別指定	—	—	—	64,491 円
奨学金指定	—	—	—	1,098,000 円
海外保健医療協力指定	—	—	—	1,949,000 円
総計	—	—	—	85,565,636 円

夏期募金は、前年度同様「みんなで生きる」6・7 月号に加え、年次報告書に、募金趣意書、払込用紙を同封する方法をとった。冬期募金は、障がい者を主なテーマとして、バングラデシュの障がい者の抱える問題とワーカー活動地の受益者の声を掲載し、簡潔に JOCS の活動の概要を掲載した。夏期・冬期募金の趣意書に、会員募集の旨を載せたところ寄付者から会員へと移行した寄付者が 9 名あった。また冬期募金の趣意書を過去 1 年間の新規切手協力者 886 名に発送し、そのうち 44 名から新規の募金協力があつた。一般寄付の他、特別寄付、奨学金指定、国別指定、東日本被災者支援指定の寄付が集まった。

〔3－6〕 使用済み切手運動

2014 年度の使用済み切手、書き損じハガキ、外国コインの収益は、次のとおりであった。

3. 国内諸活動

使用済み切手収益	1,934 万円
使用済み切手受託件数	15,380 件
〃 受託量(Kg)	11,115Kg
書き損じハガキ収益	311 万円
外国コイン収益	106 万円
事業収益合計	2,351 万円

2014 年度は使用済み切手受託量が増加した。しかし購入希望者は増えているため、今後も収集増加が望まれる。

2014 年 12 月から 2015 年 1 月まで書き損じはがき収集キャンペーンを行い、書き損じはがきの受託量も増加した。加えて外国コイン受託量の増加もあり、収益が増加した。

使用済み切手運動 50 周年記念イベントを、以下のとおり行った。

東京：チャリティコンサート×切手トーク

「あつまれ！使用済み切手と仲間たち」

日時：2014 年 9 月 13 日（土）14:00～16:30

場所：全電通労働会館（東京都千代田区）

来場者数：247 名（ボランティア 18 名、事務局 9 名含む）

使用済み切手収集量：11Kg

内容：使用済み切手運動に関して、収集家の岡崎和夫氏、元 JOCS 理事の島田恒氏、JOCS 理事の植松功氏、担当の山中信職員が対談を行った。加えて小島会長挨拶、感謝状贈呈式、ポスターコンクール（後述）表彰式、ゴスペルコンサートを行った。ゴスペルを聞きに来場された方やゴスペル関係者の方々に切手運動のことをアピールすることができた。

大阪：谷川俊太郎氏×末盛千枝子氏 対談

「みんなで生きられるか？」（大阪市中央公会堂）

日時：2014 年 9 月 20 日（土）14:00～16:00

場所：大阪市中央公会堂 大集会室

来場者数：502 名

（関西地区活動委員会委員 13 名、ボランティア 18 名、事務局 4 名含む）

使用済み切手収集量：14Kg

内容：詩人谷川俊太郎氏と 3.11 絵本プロジェクト岩手代表の末盛千枝子氏の対談を行った。対談の他に小島会長挨拶、感謝状贈呈式や使用済み切手紹介ビデオ上映など

を行い、多くの新規の方に使用済み切手運動や JOCS のことを知っていただくことができた。

また、使用済み切手運動ポスターの公募を行った。応募作品数は 14 点で、「JOCS 大賞」1 点のほか、「みんなで生きる賞」「JOCS 保健医療協力賞」にそれぞれ 1 点を入賞とした。大賞作品は、新しい使用済み切手運動啓発ポスターとして使用を開始した。

切手タスクは、2014 年を以って終了した。今後は、事務局のマーケティング部に統合され、事務局内で、切手運動諸般について議論、実行していく予定である。

〔3－7〕 JOCS 関西バザー

5 月 9 日（土）に第 20 回関西 JOCS バザーを大阪聖パウロ教会にて開催した。今年のバザーは、20 回目の記念のバザーということで、東日本震災復興支援のための品物の販売やアフリカのグッズ販売、また福引の当選数を増やすなど、来場者に喜んでいただけるような企画を行った。バザー詳細は、〔4－3－1〕の関西地区活動委員会の報告を参照のこと。

〔3－8〕 ネットワーク活動

現在、「国際協力 NGO センター（JANIC）」「関西 NGO 協議会」「障害分野 NGO 連絡会（JANNET）」「カンボジア市民フォーラム」に加入している。JANIC では、3 つのワーキンググループ「公益法人に関する NGO 連絡会」「マネジメント」「広報」に参加し、NGO の組織及び広報を強化するための情報及び経験の共有をした。カンボジア市民フォーラムでは、世話人として運営の一端を担うほか、セミナー開催への協力やニュースレターの執筆をした。JANNET では、担当職員が監事として運営に携わった。

4. 運営会議

〔4－1〕 第 53 回定時社員総会

2014 年 6 月 7 日（土）午後 1 時 30 分より、東京都中野区の中野サンプラザにて、42 名の社員の出席と 224 通の委任状、21 通の書面表決を以って開催した。議事に先立ち、JOCS50 周年記念 DVD「心をひらいて」を上映した。続いて、開会礼拝でカトリック北町教会主任司祭の天本昭好神父から奨励がなされた。その後、2013 年度事業報告が行われ、議事である 2013 年度決算報告、理事及び監事の選任が承認・決議された。また議案審議の終了後には、2014 年度事業計画、収支予算報告と JOCS「基本方針」改定案、5 ヶ年計画 2013 について説明がなされた。

4. 運営会議

〔4－2〕 理事会

定例理事会は、以下の日程、場所で開催した。

2014 年	4 月 26 日	東京事務局
	6 月 21 日	東京事務局
	8 月 2 日	東京事務局
	10 月 4 日	東京事務局
	11 月 29 日	東京事務局
2015 年	1 月 24 日	東京事務局
	3 月 14 日	東京事務局

なお、今年度の理事ならびに監事は次のとおり。

理事：小島莊明（会長）、大友宣（常務理事）、植松功、
大江浩（事務局長）（～3 月 18 日）、畑野研太郎、榛木恵子、東岡牧、平本実、
真鍋まり、森田隆（海外事業部長）（3 月 19 日～事務局長を兼務）
監事：辻本嘉助、渡部芳彦

〔4－3〕 委員会

（1）関西地区活動委員会

委員長：船戸正久

委員：宇山進、大谷透、彼谷廣子、加輪上敏彦、酒井照子、島田恒、諏訪恵子、中村満子、
畑野めぐみ、和田浩

監事：辻本嘉助 理事：榛木恵子

- 1) 隔月に開催している委員会では、各地区 JOCS の活動報告、募金報告、バザー、関西 JOCS のつどいに関する協議・反省などを行った。
- 2) 毎年恒例の関西 JOCS バザーは 20 回目を迎え、2014 年 5 月 10 日（土）に大阪聖パウロ教会を借用して開催した。前年同様延べ 100 名以上のボランティアの方々の協力のおかげで入場者約 300 名、純利益 1,294,860 円となり、約 16 万円を次回バザーの準備金とし、残金を JOCS へ寄付した。年々、使用済み切手も集まるようになり、今回は約 28.3 キロ集まった。
- 3) 使用済み切手運動 50 周年記念イベント「みんなで生きられるか？」を開催した。
詳細は、〔3－6〕使用済み切手運動参照。
- 4) タンザニアに派遣予定の弓野綾医師を励ます会を 2015 年 3 月 23 日（月）に大阪聖パウロ教会にて開催した。会員や支援者が集い、弓野氏のタンザニアでの活動予定を聞き、参加者より激励の言葉が送られた。

(2) 研修生・奨学金委員会

委員長：柳澤理子

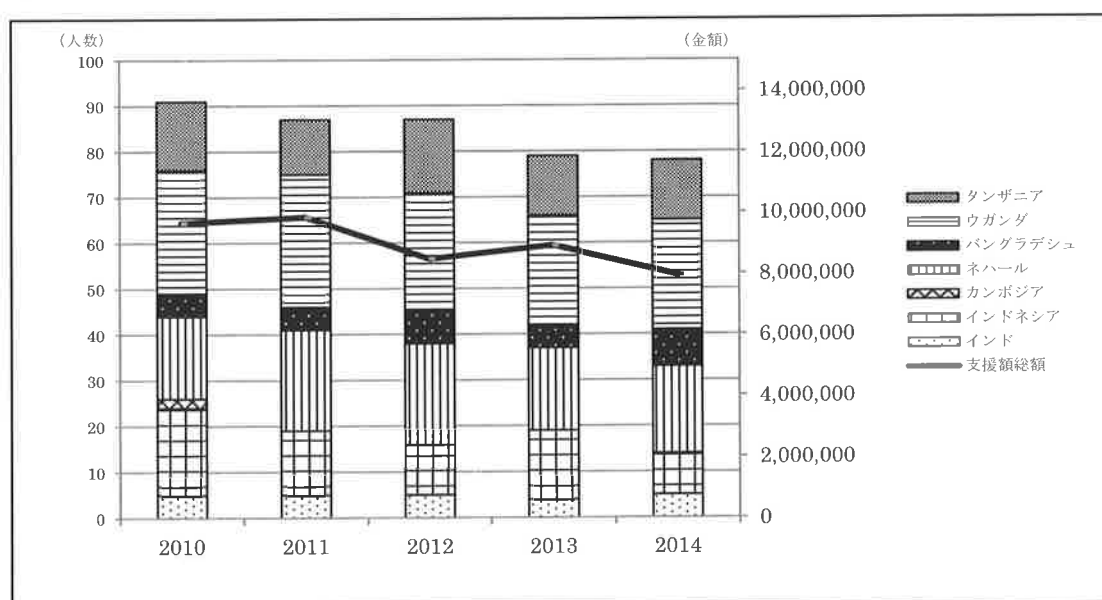
委員：小宅泰郎、諏訪恵子、細谷たき子、宮崎雅、山崎眞由美

1) 2014 年度奨学金選考結果

2014 年度予算 800 万円のうち約 362 万円は前年度までに承認された奨学生への継続支給（研修が複数年に渡る）であるため、約 438 万円を初年度支給額上限として行った。選考基準は、①JOCS の活動の焦点である、女性と子ども、少数民族、HIV の影響を受けた人々、医療過疎地にある人々のために働きたいという人材であること、②研修終了後も所属団体に留まりその地域の保健医療の向上のために働く人材であること、の 2 点であり、所属団体からの推薦状も勘案し、57 件の申請のうち 30 件を承認した。

対象国	2014 年度	
	希望者数	支給決定者数
インド	2	2
インドネシア	4	0
ネパール	9	5
バングラデシュ	5	5
ウガンダ	30	11
タンザニア	7	7
合 計	57	30

2) 過去 5 年間の奨学生数と給付額の推移



4. 運営会議

3) その他

今年度の奨学金事業のモニタリングは、タンザニア、インドネシア、バングラデシュで行い、奨学生や元奨学生、支給団体の責任者と話し合うことができた。

奨学生の現状を知り広報につなげるための取り組みとして、奨学生にクリスマスカードを送る際に近況報告をお願いする手紙を添えた。また、会報誌『みんなで生きる』で、奨学生を紹介する欄を継続して設けている。今後も同様の働きかけを続け、会報等を通じて会員・寄付者の方々へ奨学生からの声を発信していく。

(3) 財務委員会

委員長：畑野研太郎

委員：佐藤光、中嶋裕一

公益法人に求められている健全な財務運営を行い、支援者への説明責任を果たすべく、活動を行った。委員会は、四半期ごとに事務局から財務状況の報告を受け、財政運営が適正に行われていることを確認している。

年度後半には決算見込みを確認の上、次年度予算案を精査し、会長および常務理事に提出した。また、特定資産の2015年度以降の運用についても、検討を行った。

前年度に引き続いて高額のご寄付をくださった方にアンケートをお願いし、支援者の動向やJOCSに求めるものを伺って、委員会で共有している。会員や支援者獲得についても財務の立場から検討し、理事会に提言を行った。

(4) ワーカー育成委員会、ワーカー派遣委員会

ワーカー育成委員会は、その目的を、従来のワーカー候補者の発掘と育成ではなく、広く国際保健医療に関わる人材を育成する場を提供することとし、委員会ではなく、タスクとした。セミナーや勉強会は、事務局が中心となって行った。

ワーカー派遣委員会は廃止し、従来行っていたワーカー志願者の面接は、理事会が中心となり、またワーカーの採用や研修制度に関する検討は、理事の中に担当を置いて行った。

【4-4】5ヵ年計画2013

理事会は、これまでの5ヵ年計画の名称「今後5年間の方向性」を改めて「5ヵ年計画2013」とし、承認した。骨子は以下のとおりである。

<基本方針>

ービジョン

すべての人々の健康といのちがまもられる世界

一使命

本会はイエス・キリストの教えに従い、困難の中にある人々の健康といのちを守り、苦悩・喜びを分かち合う

<目標>

一定数のワーカーを派遣し、奨学金事業及び協働プロジェクトを強化すると共に事業間の連携が活発に行われる。各事業を通して世界のキリスト教会との連携と他宗教との対話が促進される。これらの事業を実施するために必要な会員に支えられ、寄付を得て、収支均衡となる。

<アクションプラン>

5ヵ年計画 2013 の目標を達成するために、大きく 2 つの分野—①海外事業部、②マーケティング部で、実施すべきことを下記のとおり、設定した。

①海外事業部で実施すべきこと—3 事業

ワーカー派遣事業は、何よりも弱くされた人々と共に生きることを喜びとし、困難を伴う活動に取り組む保健医療分野の人材を発掘・育成し派遣する。また女性・子ども・障がいを持つ人々・少数民族・HIV/AIDS と共に生きる人々・医療過疎地にある人々を重点対象として、奨学金事業及び協働プロジェクトを行う。

またそれぞれの事業推進に必要なガイドラインなどを作成する。

②マーケティング部で実施すべきこと—5 項目

会員数を一定数維持すること、日本の子どもたちが世界の現状を知り、活動に参加する機会を促すこと、JOCS が共に生きる人々の苦悩や喜びを日本の人たちと分かち合うこと、ボランティアや支援者の活動が活発化するような取り組みを行うこと、財政を健全化すること、などである。

【4－5】 評価

(1) 活動終了時レビュー

以下のワーカーの任期終了に先立ち、活動終了前レビューを以下のとおり行った。

- ・青木盛ワーカー（第二期） 2014 年 4 月
- ・山内章子ワーカー（第二期） 2014 年 6 月
- ・岩本直美ワーカー（第五期） 2014 年 10 月

(2) ワーカー自記式アンケート

ワーカー派遣後 1 年目 2 年目に行う自記式アンケートを以下のワーカーに行い、回答を理事会で検討した。

- ・岩本直美ワーカー 2 年目 2014 年 8 月

〔4－6〕 使用済み切手運動事業の公益目的事業への統合

これまで収益事業として実施してきた「使用済み切手運動事業」を公益目的事業に統合し収益事業を廃止する変更認定申請を 2015 年 2 月 2 日に内閣府に対して行い、2015 年 3 月 10 日に認定を受けた。2015 年度から JOCS の事業は公益目的事業のみとなる。変更理由は以下のとおりである。

使用済み切手運動事業は、公益目的事業の資金を得るための換金行為のみならず、定款第 4 条（5）「本邦において、世界の困難な環境におかれた人々の状況の周知、及び国際協力活動に関する支援及び協働を育む機会の提供」としても位置づけている。子どもから高齢者まで誰でも気軽に参加できるボランティア活動として、多くの方々が参加している。

全国の学校、社会福祉協議会、企業、保護観察所等から、事務局見学や講師派遣、切手整理ボランティア体験等の希望があり、受け入れている。中学校・高等学校からは、授業への講師派遣や、修学旅行での事務局訪問、夏休みのボランティア活動として事務局での切手整理体験の希望が多い。できるだけ参加型で、生徒たちが世界の状況や自分にできることは何かを考えることができるようなプログラムとなるよう工夫している。公益認定を受けてからは、保護観察所での社会貢献活動としても継続して活用されるようになった。また、コレクターにとっても、切手を換金することで国際協力活動に参加する機会となっている。

使用済み切手運動事業は、市民社会の協働を育む事業としての側面が、ますます強くなってきた。公益目的事業へ統合し、世界の人々の健康向上のための包括的な啓発事業として取り組んで行きたい。

5. 事務局

＜前事務局長 大江浩＞

2014 年度の主な事務局の動きは、下記のとおりである。

第 1 に、使用済み切手運動 50 周年記念事業（東西 2 ヶ所でのイベントやポスターコンクールなど）を、タスクメンバーの方々や関西地区活動委員会の方々のご協力を得て開催でき、切手運動と JOCS の働きへの理解を深めることができたことを心から感謝している。

第 2 に、事業運営に関することとして、以下の 6 点が挙げられる。

- ・事務局の組織改革としてマーケティング部を新設し、事務局長の下、海外事業部・マーケティング部・管理部の三部署体制とした。
- ・新体制のもと、海外事業におけるプロジェクトマネジメント、国内活動におけるマーケティングやファンドレイジングなどの面で職員の能力強化に努めた。
- ・新 JOCS「基本方針」と 5 ヶ年計画 2013（～2017 年度）を策定し、それに沿って業務の遂行を進めた。また各種規定の見直し・改定や各種事業運営のためのガイドライン作成などを行った。
- ・委員会改革の一環として、広報委員会、国内活動委員会、ワーカー育成委員会、ワーカー派遣委員会を廃止し、新たに事務局主導の広報タスク・国際保健人材育成タスクを設置した。
- ・JICA アドバイザー派遣制度を活用した専門家の指導・助言（計 16 回実施）を得て JOCS のブランディングを進めた。
- ・東京事務局では 2013 年度に引き続き、国内諸活動の企画・実施のために、大学生インターンを受け入れた。

第 3 に、組織運営全般に関することとして、以下の 2 点が挙げられる。

- ・公益法人に対する内閣府の立ち入り検査では、「組織や事業運営に関して特に問題がないことを確認した」との評価を受けた。またその際に受けた助言に基づいて、ワーカーに関する規程を整備した。
- ・国際協力 NGO センター（JANIC）の NGO 自己診断のためのアカウンタビリティ・セルフチェック 2012 を受け、組織と事業のあり方を点検・整備する良い機会となった。

2014 年度は、5 ヶ年計画 2013 の推進のために事務局の役割と責任が増したが、会員・ボランティアの方々のご支援ご協力のありがたさを痛感した年度でもあった。本年度は東京事務局で 40 名、関西事務局で 51 名のボランティアの方々が関わってくださった。心より厚くお礼を申し上げたい。

最後に、私大江は 2006 年度より 9 年間、JOCS の事務局長（旧：総主事）の任を務めさせていただいたが、2015 年 3 月 18 日をもって退任し、森田隆海外事業部長がその役割を兼務する形で事務局長の任を引き継いだ。これまでの皆様のお支えに言い尽くせぬ感謝と

5. 事務局

深い敬意を表しつつ、新しい事務局体制への主の導きとお守りを希う次第である。

＜事務局長 森田隆＞

2015 年 3 月 19 日より事務局長の職を仰せつかりました。今後のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

＜スタッフ＞

事務局長	大江浩（～3 月 18 日） 森田隆（3 月 19 日～）
海外事業部長	森田隆
マーケティング部長／管理部長	名取智子
東京事務局	大久保奈緒、小池宏美、高橋淳子、服部由起、山中信 森田真実子（1 月 31 日～産休・育児休職） 川熊菜那（インターン）（6 月～10 月）、 横山菜穂（インターン）（12 月～）
関西事務局	渋谷理香、河野智恵（～7 月）、西村卓（7 月～）

6. 社員会員・一般会員の現状報告

2015 年 3 月 31 日現在

社員会員	366 名
一般会員	3,866 名
合 計	4,232 名

2014 年度中の社員会員、一般会員の異動

1. 社員会員

(1) 新しく社員会員となられた方	5 名
(2) 社員会員を辞し、一般会員となられた方	20 名
(3) 退会された方	21 名

2. 一般会員

(1) 新たに入会された方	163 名
(2) 退会された方	169 名

7. 2014 年度の主な動き

4 月

- 5 日 京都 JOCS チャリティウォークソン（鴨川河川敷）
- 10－19 日 森田隆海外事業部長、バングラデシュ出張
- 25－27 日 スタンプショウに出店（都立産業貿易センター浜松町館）
- 29 日 日本エキュメニカル協会エキュメニカル功労賞授賞式

5 月

- 10 日 JOCS 関西バザー（大阪聖パウロ教会）
- 17 日 海外保健医療勉強会（東京事務局）
- 25 日 四国高知 JOCS のつどい（高知教会）
- 27－6 月 5 日 森田隆海外事業部長、服部由起職員、協働プロジェクトモニタリングのためタンザニア出張

6 月

- 7 日 第 53 回定時社員総会（中野サンプラザ）
- 13 日 海外保健医療勉強会（東京事務局）

7. 2014 年度の主な動き

- 21－28 日 高橋淳子職員、協働プロジェクトモニタリングのためバングラデシュ出張
- 23－28 日 植松功理事、森田隆海外事業部長、山内章子ワーカーレビューのためバングラデシュ出張
- 29－7 月 9 日 森田隆海外事業部長、森田真実子職員（6 月 30 日～）協働プロジェクト形成のためカンボジア出張

7 月

- 12 日 神戸 JOCS のつどい（神戸栄光教会）
- 26 日 京都 JOCS チャリティコンサート（京都府民ホールアルティ）

8 月

- 3 日 仙台 JOCS、仙台地球フェスタ 2014 に出展（仙台国際センター）
- 29 日 JICA、NGO 向けアドバイザー派遣開始（ミーティングを 16 回行った）
- 30 日 海外保健医療勉強会（東京事務局）

9 月

- 13 日 使用済み切手運動 50 周年記念イベント
「あつまれ！使用済み切手と仲間たち」チャリティコンサート×切手トーク
（全電通労働会館）
- 18 日－10 月 1 日 服部由起職員、協働プロジェクトと奨学金事業のモニタリングのためタンザニア出張
- 19 日 内閣府公益法人立入検査
- 20 日 使用済み切手運動 50 周年記念イベント
「みんなで生きられるか？」
谷川俊太郎氏×末盛千枝子氏対談（大阪市中央公会堂）
- 26－27 日 仙台・石巻を訪ねて復興支援を考える旅
- 27 日 海外保健医療勉強会（東京事務局）
- 28 日 青木盛ワーカー第二期活動終了、パキスタンより帰国

10 月

- 4－5 日 グローバルフェスタ JAPAN に出展（日比谷公園）
- 16－23 日 植松功理事、森田隆海外事業部長（－26 日（日））、岩本直美ワーカーレビューのためバングラデシュ出張
- 18－29 日 服部由起職員、奨学生事業モニタリングのためインドネシア出張
- 25 日 海外保健医療勉強会（東京事務局）
- 31 日 大阪 JOCS カフェ（大阪聖パウロ教会）
- 31 日－11 月 7 日 バングラデシュ活動紹介ツアー

11 月

- 8-9 日 高知スタンプショウに出店（イオンモール高知）
- 17-25 日 森田隆海外事業部長、協働プロジェクトモニタリングのため、カンボジア出張
- 22 日 海外保健医療勉強会（東京事務局）
- 29 日-12 月 12 日 高橋淳子事務局員、協働プロジェクトと奨学金事業のモニタリングのためバングラデシュ出張
- 30 日 四国 JOCS のつどい（高知教会）

12 月

- 13 日 足利市民クリスマス（足利市民プラザ）
- 24 日 関西事務局ボランティア・クリスマス会
- 29-30 日 海外保健医療フィールドセミナー（横浜市中区 寿地区）

1 月

- 10-21 日 森田隆海外事業部長、服部由起職員、協働プロジェクトモニタリングのためタンザニア出張
- 18 日 足利 JOCS のつどい（足利市生涯学習センター）
- 30 日 東京事務局ボランティア新年会（東京事務局）

2 月

- 7-8 日 ワン・ワールド・フェスティバルに出展（関テレ扇町スクエア）
- 14 日 海外保健医療勉強会（東京事務局）
- 19 日 チャリティー映画会「日本の青空」（亀戸文化センター）
- 26 日 JANIC「アカウントビリティ・セルフチェック 2012」実施
- 28 日 神戸 JOCS のつどい（神港教会）

3 月

- 1-10 日 森田隆海外事業部長、高橋淳子事務局員、協働プロジェクト終了時評価のためバングラデシュ出張
- 6 日 海外保健医療勉強会（東京事務局）
- 9 日 弓野綾ワーカー入職
- 16 日-23 日 森田隆海外事業部長、協働プロジェクトモニタリングのため、カンボジア出張
- 18 日 大江浩事務局長退職
- 19 日 森田隆事務局長就任

7. 2014 年度の主な動き

28 日 大阪 JOCS カフェ（大阪聖パウロ教会）

29 日 弓野綾ワーカー派遣祝福式（溝のロキリスト教会）